



市 田 陽 児

(1948年霜月、和歌山県田辺市出身)

1. 略歴

- 1964年 4月 和歌山県立田辺高等学校入学
- 1967年 3月 和歌山県立田辺高等学校卒業
- 1969年 4月 信州大学理学部数学科入学
- 1973年 3月 信州大学理学部数学科卒業
- 1973年 4月 高千穂パロース株式会社情報システム (1974年 8月まで)
- 1974年 11月 三井銀ソフトウェアサービス株式会社 (1980年 12月まで)
- 1981年 1月 日本大学商学部システム開発担当 (1992年 3月まで)
- 1992年 4月 日本大学商学部講師 (専任扱い) (情報システム分析、設計担当)
- 1993年 4月 日本大学商学部専任講師 (情報システム分析、設計担当)
- 1997年 4月 日本大学経済学部非常勤講師 (1998年 3月まで)
- 1997年 10月 日本大学商学部助教授 (情報システム分析、設計担当)
- 1999年 4月 米国カリフォルニア州立大学フラトン校客員研究員 (1999年 12月まで)
- 2007年 4月 日本大学商学部准教授 (学校教育法一部改正により助教授から准教授へ呼称変更)
- 2009年 4月 日本大学商学部教授 (情報システム分析、設計担当)
- 2010年 4月 ドイツ・ミュンヘンのLudwig-Maximilians-UniversitätのJapan-Zentrum

客員研究員 (2010 年 10 月まで)
2011 年 4 月 商学部情報科学研究所次長 (2011 年 9 月まで)
2016 年 8 月 商学部情報科学研究所次長 (2017 年 3 月まで)

2 研究業績

① 主要論文

「生産システムのパラダイムシフト」『商学集誌』第 88 巻第 4 号, 2019

“Competitive Advantage of Additive Manufacturing Strategy in the Design Phase for Automotive Suppliers” *Knowledge Transfer and Transformation: Global and Local Business for Competitiveness Social Justice*, Nepalese Academy of Management, 2017, pp.528-548

“Current Status of 3D printer Use among Automotive Suppliers: Can 3D Printed-parts Replace Cast Parts?”, Vol.5, *ISPACP*, 2016, pp.69-82

“Development of the Vietnamese Automotive Industry and EDI Infrastructure”, Vol.4, *ISPACP*, 2016, pp.80-95

“A Study for Software-as-a-Service Accelerating Business Innovation”, 『经济东亚管理协会国际联盟第九届年会论文集』, 中国管理科学研究院企业管理创新研究所, 2008, 254 ~ 266 頁

“Development of B2B Digital Infrastructure”, *International Journal of Asian Management*, Vol.2, No.1, Springer, 2003, pp.81-91

“Computer Networks and Interfirm Relationship in the Automobile Industry: A Comparative Study of Japan and Korea”, *Computers & Industrial Engineering*, Vol.33, No.3-4, Elsevier Science, 1997, pp. 635-638

他

② 学会発表

「自動車設計局面におけるビットとアトムの連携」、2018 年春期全国大会・情報経営学会 (北海道情報大学)、2018 年 6 月

「自動車産業における 3D プリント活用の現状と展望」、2017 年秋期全国大会・経営情報学会 (岩手県立大学)、2017 年 9 月

“Development of the Vietnamese Automotive Industry and EDI Infrastructure”, IFEAMA 12th, 2014.8

「自動車部品取引における 1 次サプライヤ、2 次サプライヤの EDI 利用の現状と普及の課題」、2013 年秋期全国大会・経営情報学会 (流通科学大学)、2013 年 10 月

“Construction of Network Infrastructure for Automotive EDI in Asian Countries”, IFEAMA 11th, 2012.10

「ドイツの自動車部品取引におけるクラウドコンピューティングの研究」、2011 年春期全国大会・経営情報学会 (専修大学)、2011 年 5 月

「ヨーロッパ自動車産業における EDI の現状と課題」、第 61 回日本情報経営学会 (熊本学園大学)、2010 年 10 月

“The Globalization of Automotive Network Infrastructure: ENX Moves Toward the

East”, , IFEAMA 10th, 2010.01

他

③ 教科書、他

『コンピュータリテラシー 第6版』(編集、第1章、第4章、第5章)、2015年、愛智出版
『コンピュータリテラシー 第5版』(編集、第1章、第4章、第5章)、2012年、愛智出版
『コンピュータリテラシー 第4版』(編集、第1章、第4章、第5章)、2009年、愛智出版
『コンピュータリテラシー 第3版』(編集、第1章、第4章、第5章)、2005年、愛智出版
『コンピュータリテラシー 第2版』(編集、第1章、第4章、第5章)、2003年、愛智出版
『コンピュータリテラシー 第1版』(編集、第1章、第4章、第5章)、2001年、愛智出版
『増補版現代経営用語の基礎知識』の編集委員およびIT関連用語の執筆、2005年、学文社

3 学位

理学士

4 主要所属学会

アジア経営学会(1993年4月頃、野口佑先生のご指示で設立準備作業に小阪隆秀教授とともに従事、評議員:2000年10月~2003年10月、理事:2003年10月~2006年9月、常任理事、機関誌編集委員会副委員長、ホームページ委員会委員長:2006年9月~2009年9月、評議員:2009年9月~2012年9月、理事、東アジア経営学会国際連合[IFEAMA]担当理事:2012年9月~2015年9月、評議員:2015年9月~2018年9月)、IFEAMA(東アジア経営学会国際連合)(Director[理事]およびCouncilor[評議員]:1995年7月~2017年9月)、情報処理学会、経営情報学会、日本情報経営学会、日本経営学会、IEEE Computer Society

5 私の研究

コンピュータ、情報ネットワークがビジネスでどのように利用されているか、これらの発展がビジネスへどのような影響を与えるかについて、実証的な研究を行ってきた。具体的には、自動車産業における組立メーカーとサプライヤ間での企業間インターフェースをデジタル面から再定義し、電子データ交換(EDI)に焦点をあて、北米自動車産業界の標準通信ネットワーク一つであるANX、ヨーロッパ自動車産業界のENX、日本の自動車産業化のJNXについて課題を分析し展望を研究した。このために、海外派遣研究員として米国、欧州に滞在した際には、組立メーカー、サプライヤ、ENX、ANXの事務局などを訪問して、研究交流した。ENXとANXは10年越しの提携を実現し、相互接続のための調印式がベルリンにあるドイツ自動車工業会(VDA)のオフィスで2010年7月7日に行われた。その頃ミュンヘン大学に客員研究員として滞在していたので、親交のあるENXの幹部からの誘いでこの調印式に参加できたことは幸運で光栄なことであった。

3Dプリンタも研究トピックの一つである。自動車産業界での普及のために、自動車メーカーとサプライヤ間における設計段階でCADデータの交換だけでなく、3Dプリンタで製造した部品を使ってコミュニケーションを促進するように提案している。

アメリカのローカルモーターズ社では3Dプリンタでモーター、バッテリー、パワートレイン、タイヤ、ホイールを除いた車体の70%を製造している。和歌山市にある島精機製作所が

開発したホールガーメント横編機では糸からニットウェアを直接編み上げる。これらの生産システムの特徴は、マス・プロダクション、マス・カスタマイゼーションと異なり生産工程が一つの機械の中で完結することである。デジタル設計データから直接製品が完成するダイレクト・デジタル・マニユファクチャリング（DDM）であり、素材から製品を直接製造するので、サプライチェーンに大きな影響を及ぼすことを事例で示した。これが、最新の研究成果である。



小 阪 隆 秀

1948年8月28日生まれ（和歌山県）

1. 略歴

- 1975年3月 同志社大学商学部卒業
- 1977年3月 日本大学大学院商学研究科修士課程修了
- 1978年4月 日本大学商学部助手
- 1981年3月 日本大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学
- 1982年4月 日本大学商学部専任講師
- 1987年4月 日本大学商学部助教授
- 1988年9月 Bielefeld 大学客員研究員（～1990年3月）
- 1994年4月 日本大学商学部教授
- 1999年2月 ベルリン社会科学研究所客員研究員（～1999年5月）
- 1999年4月 日本大学大学院商学研究科教授
- 2000年1月 商学研究所次長（～2001年8月）
- 2001年9月 商学部情報科学研究所長（～2002年8月、2003年1月～2004年8月、2009年9月～2011年9月、2015年4月～2016年7月）
- 2002年9月 商学部就職指導担当（～2003年1月）
- 2013年4月 商学部企画広報担当（～2015年3月）
- 2016年8月 商学部学生担当（～2017年3月）

2. 研究業績

① 共編著

『現代企業の構図と戦略』（共編者・松野弘）〔中央経済社〕〔1999年12月〕

『情報ネットワーク経営』（共編者・林正樹・井上照幸）〔ミネルヴァ書房〕〔2001年5月〕

② 主な共著

『産業技術の新展開と経営管理の課題』（経営学論集53）〔千倉書房〕〔1983年9月〕

『世界経済構造の変動と企業経営の課題』（経営学論集62）〔1992年9月〕

『経営革新へのアプローチ』（八千代出版）〔1996年6月〕

『日本の主要産業と東アジア』（八千代出版）〔2001年5月〕

『現代の雇用問題』（晃洋書房）〔2003年2月〕

『日本産業と中国経済の新世紀』（唯学書房）〔2004年3月〕

『現代組織の論理と変革』（ミネルヴァ書房）〔2005年7月〕

『グローバリゼーションの危機管理論』（芦書房）〔2006年6月〕

『会社と社会』（文理閣）〔2006年12月〕

『アジア地域のモノづくり経営』（学文社）〔2009年9月〕

『経営学の展開と組織概念』（文眞堂）〔2010年5月〕

『社会保護政策論』（慶應義塾大学出版会）〔2014年5月〕

『現代の産業・企業と地域経済』（晃洋書房）〔2018年5月〕

③ 主要論文

「官僚制組織論の基本的性格と Weber の『支配』概念」『商学集志』第 51 巻第 1 号〔1981 年 6 月〕

「オーソリティー概念の批判的考察－ウェーバー官僚制論の再評価のために－」『商学集志』第 51 巻第 4 号〔1982 年 3 月〕

「西ドイツ中小企業の独立志向－下請け分業システムについての日独比較の視点から－」

「『新しい技術』と組織の変化－ブキャブソン＝ポッディーの所論を中心として－」『商学集志』第 54 巻第 4 号〔1985 年 3 月〕

『中小商工業研究』（中小商工業研究所）第 15 号〔1988 年 6 月〕

「自動車産業におけるピラミッド型システムの形成と機能－『競争』と『コントロール機構』をビルト・インした分業システム－」『商学集志』第 63 巻第 2 号〔1993 年 3 月〕

「自動車企業における情報ネットワーク化戦略－『拡張された J I T システム』としての受注生産販売システム－」『情報科学研究』（日本大学・情報科学研究所）第 4 号〔1994 年 3 月〕

「韓国自動車産業の成立と部品企業系列化」『情報科学研究』第 7 号〔1997 年 12 月〕

「ASEAN における日本自動車企業の部品調達ネットワーク」『アジア経営研究』（アジア経営学会）第 4 号〔1998 年 3 月〕

「世界に進出するトヨタの新戦略」『経済』第 122 号〔新日本出版〕〔2005 年 10 月〕

「トヨタの海外展開戦略とトヨタウェイ」『工業経営研究』（工業経営研究学会）第 21 巻〔2007 年 9 月〕

「『企業と社会』関係論への歴史的視座－大企業権力への『社会』からのガバナンス－」『商学論纂』（中央大学商学部）第 53 巻第 5・6 号〔2012 年 3 月〕

④ 翻訳

ゲッティンゲン社会科学研究所編『産業用ロボットと労働者』（土屋嘉一郎監訳）（文真堂）〔1986年10月〕

クラウス・ゼムリンガー稿「ドイツ産業における小企業の役割」『中小商工業研究』〔中小商工業研究所〕No.35〔1993年4月〕

クラウス・ゼムリンガー稿「ドイツ小企業の制度的ネットワークと企業間協力関係」『中小商工業研究』〔中小商工業研究所〕No.36〔1993年7月〕

ネイル・J・ミッチェル著『社会にやさしい企業』（共同監訳者：松野弘）（同友館）〔2003年5月〕

J.E.ポスト/A.T.ローレンス/J.ウェーバー著『企業と社会－企業戦略・公共政策・倫理－』（上・下）（共同監訳者：松野弘・谷本寛治）（ミネルヴァ書房）〔2012年3月〕

3. 学位

商学修士

4. 主要所属学会

日本経営学会（理事・情報化検討委員会委員長・1998年9月～2004年9月、常任理事・2010年9月～2016年9月）、日本学術会議（企業行動研究連絡委員会委員・2000年10月～2003年10月）、日本比較経営学会（理事長・2006年5月～2009年5月）、アジア経営学会（会長・2015年9月～2018年9月）、東アジア経営学会国際連合（IFEAMA）（評議員・2015年9月～2018年9月）、日本経済学会連合（評議員・1998年4月～2004年4月、理事・2014年5月～現在に至る）、経営関連学会協議会（評議員・2006年11月～2011年9月、2014年9月～2018年9月）

5. 私の研究

研究のスタートはマックス・ウェーバーの官僚制組織論であり、そこでの支配のメカニズムについて検討することが中心課題であった。この支配関係は、単に組織の中だけで論じられているのではなく、市場と組織の関係においても支配の本質が規定されている。

そこで次に、企業間関係として、主に自動車産業における競争優位の源泉の一つとしての日本的な下請分業システムにおける親企業と下請けとの関係における支配の本質について検討することになった。また、その関係が企業の海外進出にともないグローバルに展開されていく中でどのようにして維持されるのか、あるいは新たな企業間関係を形成していくことになったのかを比較分析することになった。

そして、最終的に、企業そのものに対するコントロール（支配あるいはガバナンス）として、市場との関係のみならず、それよりも広い社会からのガバナンスの可能性について検討することになった。

このように、組織を中心にしてそれを取り巻く市場や社会との関係で支配について研究することを課題としてささやかながら研究を重ねてきた。



福田 昌 義

(1948年、東京都出身)

1. 略歴 (学歴・職歴の順)

- 1971年3月 早稲田大学政治経済学部政治学科 卒業
- 1976年5月 アメリカン国際経営大学院 修士課程修了
- 1971年4月 国際電信電話 (KDD) 入社
- 1976年6月 米国・シティバンク、NA 入行 (マネジャー)
- 1986年4月 欧州投資銀行・ピアソン・ザルオープンハイム駐日代表事務所
入行 (上席代表)
- 1992年8月 福田国際経営事務所 (代表取締役)
- 2003年4月 大阪工業大学知的財産学部 教授
- 2004年4月 日本大学商学部 教授

2. 研究業績

① 著書

- 「ベンチャー創造のダイナミクス－経営・評価・育成の視点－」(編・共著) 文真堂、2000年
- 「現代経営の課題」第5章 ベンチャーマネジメント (共著) 中央経済社、2004年
- 「戦略的経営課題」第5部・第1章 ベンチャー企業 (共著) 中央経済社、2006年

② 主要論文

「日・米のベンチャーキャピタリストが投資決定に至るまでの過程」日本中小企業学会論集・13所収（同友館、1994年）108頁

「ベンチャービジネスのリスクと経営戦略－リスクと戦うベンチャー経営者の戦略意識」日本中小企業学会論集・16所収（同友館、1997年）153頁

「新しい日本型経営の探索－営利・非営利の垣根を越えて－」経営教育研究 Vol.13.No.2所収（学文社、2010年）11頁

「社会起業家を支えるソーシャルファイナンスとベンチャーフィランソロピーの生成及び意義」情報科学研究 第21号（2012年）33頁

「ベンチャーフィランソロピーとソーシャルファイナンスの生成・発展に関する考察」経営教育研究 Vol.18.No.2所収（学文社、2015年）31頁

「ソーシャルベンチャーと利他的な投融資」商学集志 第85巻 4号 5頁

3. 学位

国際経営学修士（Master of International Management）

4. 主要所属学会

- ① 日本中小企業学会（1992年～2002年）
- ② 国際ベンチャー企業協議会（60ヶ国以上の会員を有する国際学会、1995年～2011年）・副会長
- ③ 日本ベンチャー学会（1997年～）
- ④ 日本マネジメント学会（2004年～）・理事
- ⑤ 日本NPO学会（2004年～）

5. 主な受賞歴

- ・500 Leaders of Influence in 2001 受賞（グローバルなベンチャー企業支援活動に対して）American Biographical Institute
- ・平成13年度 中小企業研究奨励賞・本賞 受賞（著書・ベンチャー創造のダイナミクス－経営・評価・育成の視点－）（財）商工総合研究所

6. 主な学会・官公庁・財団等の役職歴

- ① 国際ベンチャー企業協議会・副会長
- ② 日本マネジメント学会・理事
- ③ 文部科学省高等教育局・大学振興課・審査委員
- ④ 経営学検定試験協議会・審査委員
- ⑤ （財）大阪産業振興機構・アドバイザー
- ⑥ 東京都・日本私立大学団体連合会共催「学生起業家選手権」・審査委員長
- ⑦ 東京都・産業労働局 研究会・副座長
- ⑧ 東京都・東京商工指導所・審査委員
- ⑨ 山形県・鶴岡総合研究所・研究顧問

その他、上場企業の社外監査役や顧問、新規企業の社外取締役等を歴任。また、本学教授就任以前には経営コンサルタントとして約 50 社の企業のコンサルティングや企業研修に関与してきた。

7. 私の研究

これ迄の研究活動の主要な領域は以下の通りである。

(1) 本学の教授就任前（1992 年～2004 年）

日・米でのベンチャーキャピタル投資の実務経験、さらに研究開発型ベンチャー企業等を対象とした経営支援・コンサルティングから得られた知見が研究活動のベースであった。とりわけベンチャー企業の成長ステージに着目し、その持続的成長のメカニズムの視点から、起業家の“ビジネスリスクへの対処”と“戦略意識”に関する実証的な研究を中心に行ってきた。

(2) 本学の教授就任後（2004 年～現在）

それ迄の専門領域である営利を目的としたベンチャービジネス / 起業家、ベンチャーキャピタル投資そしてイノベーションの研究成果を踏まえて、これらのいわば隣接の分野でありかつ先端的な領域でもある社会起業家 / ソーシャルベンチャー、ベンチャーフィランソロピーへ研究領域を拡大した。とりわけ利他的な投資であるベンチャーフィランソロピー（インパクトインベストメント）における国際比較に焦点を当て研究を進めてきた。